BEST AVAILABLE COPY

公開実用 昭和59— 67307

19 日本国特許庁 (JP)

印実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭59—67307

(1) Int. Cl. 3 B 60 C 23/04 識別記号

庁内整理番号 6631-3D 砂公開 昭和59年(1984)5月7日

審查請求 未請求

(全 頁)

多リムバンド

東京都北区十条仲原2丁目10番

8号

頤 昭57-164091

⑪出 願 人 トピー工業株式会社

砂実 砂出

願 昭57(1982)10月29日

東京都千代田区四番町5番地9

⑦考 来 者 大澤茂

四代 理 人 弁理士 吉村公一

BEST AVAILABLE COPY



明知和

1. 考案の名称

リムパンド

2. 実用新案登録請求の範囲

周方向に続くりムの深底海内に嵌装される平板 状のパンドであつて、その両端縁を以て上記した りムの深底海内に相互に無端状に接続されるとと もに、設パンドにはその長手方向にわたり、1又 は2以上の器具類装着用取りつけ部を設けたこと を特徴とするリムパンド。

3. 考案の詳細な説明

本考案は自動車用タイヤホイールにおけるリムに装着するためのリムバンドに関する。

自動車用車輪の構造についても最近では著るしい進歩がみられ、とくにタイヤ内の空気圧を常時 検出し、あるいはタイヤ自体の摩耗度を検知し、 危険な状態となつた場合には警報を発することに より走行上の安全性を向上させようとする試みも とくに本発明者らの研究グループにより提案され、 目下その実用化に努力しているところである。



ところがたとえば上記したタイヤ空気圧の検出 器にしても、これを車輪内に組み込むことはタイヤの構造上きわめて難かしい問題をのこしている。 すなわち車輪はタイヤと、これを嵌装するため のホイールとからなるものであり、上記した検出 器等の器具類をホイールに装着する必要がある。

ところがホイールとくに直接的にタイヤを受け容れるリムの外周側にこれをとりつける場合においても、該リムに対するタイヤの意脱作業を阻害する結果あまり好ましくはない。

そこで本発明者はこれをリムの周方向に続く深 底滑内に装着するためのリムパンドを案出したも のであつて、具体的には周方向に続くリムの深底 群内に嵌装される平板状のパンドであつて、その 両端線を以て上記したリムの深底海内に相互に無 端状に接続されるとともに、散パンドにはその長 手方向にわたり、1又は2以上の器具類装着用取 りつけ部を設けたことを特徴とするものである。



上配したリムバンド1に対し、たとえばタイヤ空気圧検出器等の器具類13をあらかじめネジ止めする等の方法により装着して用意し、これをリム11にタイヤ14を嵌め込んだ後にタイヤ14の片側のピードを他側に押し寄せ、これにより紹出したリム11の深底群12内に上記したリム11の深底群12内に上記したの告にがンド1を沿わせて円形に折り曲げし、一端の告にないり返して相互に無端状に接続して固着する(新り返して相互に無端状に接続して固着する(新

3 図参照)ことによつて器具類をホイール 1 1 の 際底 得 1 2 内に装着させる。

尚、この場合においては、タイヤ14をリム11から取り外す場合には、さきに上記したリムバンド1を深底構12内から外す必要がある。

また器具類の取りつけはリムバンド1をリム 11 の際底離 1 2 内に取りつけた後におこなうように してもよいことはいうまでもない。

本考案は上記した通りであるから、タイヤ空気 圧力使出器の如き器具類をタイヤ内に装着するに 際し、リムの深底海内に埋散することになるので リム自体に何らの加工を施こすこともなく簡単で しかも確実に器具類を車輪内に組み込むことがで きる等個々の有益な効果を奏する。

4. 図面の領単な説明

図はいずれも本考案の一実施例を示すものであって、前1図は本案のリムバンドを利用して帰具類を車輪内に装着した状態をあらわす車輪の要部 助面図、

第2回はリムペンドの全体を示す展開された状態



の斜視凶、

第3図はリムバンドの結合状態をあらわす斜視図 である。

1・・・リムパンド、 2・・・角穴、

3・・・舌片、 4・・・器具類装滑用

取りつけ邵、 11・・・リム、

12・・・深底酶部、 13・・・空気圧検出器、

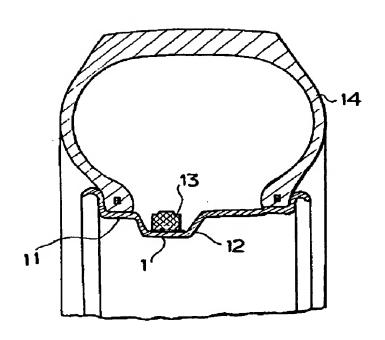
14 . . . 914.

考 案 者 大 澤 茂

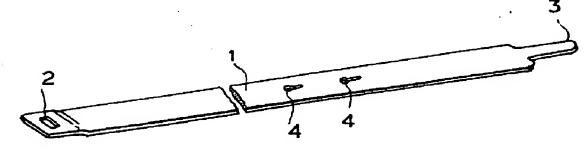
実用新案登録出題人 トピー工 薬株式会社

代 理 人 弁理士 吉 村 公 一

篘 図



2 図



トピー工業株式会社 実用剪案登録川廟人 代理人 护理士 告 村